

一般社団法人四日市青年会議所 創立70周年記念品（萬古焼） 選定理由



湯呑（マグカップ）イメージ

■ 記念品選定理由

参加いただいた方が四日市青年会議所があるこのまちに親しみを持っていただくために、このまちの伝統工芸である萬古焼の『湯呑』をお渡ししたいと考えております。このまちの名産品と伝統工芸である萬古焼の『湯呑』をお渡ししたいと考えております。このまちの名産品として形に残り、そして今後も飾りとしてではなく、実用的に使っていただけるものを考えました。そして、別途記念品として考えているお茶を飲むにも適しており関連性を持たせました。

■ 萬古焼について

桑名の豪商沼波弄山（ぬなみろうざん）が、元文年間に創始。弄山が、自身の作品に「萬古」または「萬古不易」の印を押したのが、名前の由来とされています。（弄山の時代の作品は、現代では古萬古と呼ばれる）弄山の没後、一時跡絶えるものの、天保年間、森有節（本名は与五左衛門）らによって再興されました。明治時代には山中忠左衛門らによって洋皿やコーヒーカップ等の洋食器の研究や地域住民への製作指導、海外輸出も行われるようになりました。市内陶栄町には萬古神社が築かれ、森や山の中に記念碑が建てられています。陶器と磁器の間の性質を持つ半磁器（炝器）に分類されます。三重県四日市市の代表的な地場産業であり、1979年1月12日から伝統工芸品に指定されています。

■ 参考価格

萬古焼 藍窯堀内製陶所 萬古焼 藍窯 デイリーカップ(ビードロ) 1,200円（税込み）